



学校教育目標「心豊かで、自ら考え行動できる生徒の育成」 校訓「自主・勤労・敬愛」

スローガン「努力夢現」～努力を続け、夢や目標を実現・達成できる学校～

心を見つめる教育週間スタート

本校の「長崎っ子の心を見つめる教育週間」は、7月1日（金）～7日（木）の1週間を設定しています。初日には、校長から教育週間について講話がありました。その一部を紹介します。

小ヶ倉中学校では今週の1週間、学校を公開して、保護者の方々に自由に学校にきていただくようにします。そして、学校の様子を見ていただいたり、一斉に道徳の授業を公開したりして、「命の大切さ」を意識して過ごす1週間とします。今日からの1週間は、自分の心を深く見つめ、「命とは何か」

「生きるということはどういうことか」について自分なりに真剣に考え、自分の日々の「ことば」や「行い」について気になることがあれば改善していくように努めてほしいと思います。

最近「いじめ」の事案をよく耳にしますが、いじめのほとんどが「ことば」によるものであるという結果も出ています。SNS上でのトラブルも後を絶ちません。

本校では、毎月你的生活アンケートや教育相談を行っています。今学期に「いじめ」事案が1件ありました。どうしていじめはなくなるのでしょうか。

去年11月、東京都町田市立小学校に通っていた6年生の女儿が複数の児童からのいじめを訴える遺書を残して自殺した事件がありました。女儿の両親によると、女儿は情報端末のチャット機能で悪口を書かれるなどの被害を受けていて、こういったSNS等によるいじめが後を絶ちません。両親が女儿の同級生に行った聞き取り調査によると、いじめは女儿が4年生の頃に始まり、加害児童は学校が児童に配布した情報端末のチャット機能を使って、「うざい」「きもい」「死んで」などの悪口を書いていたといえます。

このネットいじめについては、家の中までいじめが広がります。ネットを使ったいじめは被害者に逃げ場を与えません。ネットを使わないいじめであれば、自宅が緊急避難場所となっていて、帰宅すれば一時的にでも休息できるでしょう。しかし、ネットは時間と場所を選びません。スマホに通知が来れば「いやがらせメッセージが届いた？」と怯え、通知が来なければ「無視されている？」「知らぬ間に何か書かれている？」とストレスを感じ続けます。だから自宅というオアシスにまで侵入してくるネットいじめは、本当に悪質なのです。

現在、学校では1人1台端末が支給され、また、中学生のスマホの所持率も高くなり、ネットはより身近で便利になっています。しかし、使い方次第では、友人を傷つけ、さらには自殺に追い込むこともあることを忘れないでください。これとは逆に、ネットでいじめ被害者を勇気づける使い方があります。匿名で構わないので、SNSを使って「私はあなたのこと嫌いじゃないよ」「俺は味方だよ」というメッセージを、いじめられている子どもに送ってほしいのです。それだけで「全員、敵かもしれない」と苦しんでいる被害者が少し安心できます。いじめの傍観者にもできることがあるのです。ネットは人を傷つけ、殺す道具ではありません。使い方次第で人を救うことができるのです。

この一週間は自分の心に問いかける一週間にしてください。小ヶ倉中学校の皆さん全員が「安心安全」で、「毎日登校したい学校」「楽しい学校」となるよう、まずは、自分を大切にするように、そして、周囲の人とも大切な友達として接して、勉強・運動に励んでくれることを期待します。



※学校だよりは、ホームページでもご覧になれます。

<http://www.nagasaki-city.ed.jp/kogakura-j/>

